

## AIと消費者保護 — 利用者の視点から

一般社団法人インターネットユーザー協会

理事 八田真行

[mhatta@miau.jp](mailto:mhatta@miau.jp)

2018/02/21@AIネットワーク社会推進会議

## インターネットユーザー協会(MIAU)

- <https://miau.jp/>
- 2007年設立
- 日本においてインターネットやデジタル機器等の利用者にとって望ましい環境を醸成することを目指し、著作権など法制度についての情報の普及や情報政策に関する提言、情報リテラシーの向上支援などの活動を行っている
- 米EFFや英ORGがお手本
- 共同代表理事 小寺信良、津田大介
- 理事 庄司昌彦、八田真行
- 事務局長 香月啓佑

## 基本的な考え方

- 過剰な事前規制が技術受容を阻害するのは確か
- ただ、**AI**によるブラックボックス化が利用者に害を及ぼすことを懸念
- 特に、問題が生じた際にたらい回しされる恐れ
- そもそも害を被っていることに気づかない恐れもある

## 大原則

「アルゴリズムとそれを駆動するデータは、人間によって設計、作成されたものである。よって、あるアルゴリズムによって下された、あるいは支援された意思決定に関し、最終的責任を負う人間が常に存在する。『アルゴリズムのせいだ』は、機械学習プロセスによるものを含むアルゴリズム的システムが、過ちを犯したり、望まれない結果をもたらした際に認められる弁解とはならない。」

Fairness, Accountability, and Transparency in Machine Learning (FAT/ML), “Principles for Accountable Algorithms and a Social Impact Statement for Algorithms”

## 責任の明確化

- AIを用いたサービスの実運用に関しては、責任者を置き、内部的にだけでなく、外部からも明確に分かるようにすべき
- 特定商取引法に基づく運営責任者表記のイメージ
- トラブルが生じた際の人間の対応者の明確化が必要

## 説明責任

- AIがなぜそう振る舞ったのか、専門家だけではなく一般的な利用者にも分かるように説明する責任がある
- AccountabilityというよりはExplainability
- 開発者、運用者と利用者間に大きな知識の差

## 的確性の証明

- AIが行った意思決定が十分的確と言えるのか、誤ったとしたらそれはなぜか、検証するのに必要な情報を保持する必要
- システムログ、データセットの出所など
- ワーストケースシナリオの想定と救済策の検討
- 可能ならば利用者によるデータ訂正の機会提供

## システム監査

- 第三者による定期的監査を受け入れる必要
- API等必要な情報の開示
- 自動テストを認めるサービス利用規約
- 内部通報制度の充実も必要



## 公正性の担保

- AIにより、性や人種、出身等に基づく差別的、不公平な意思決定が行われないように留意する必要

ご清聴ありがとうございました